

上部新第三系・第四系の玄武岩質～安山岩質の溶岩分布域には、NW-SE～WNW-ESE方向に伸長した比較的大規模の白色化変質帯が数カ所に分布する。これらの変質帯は、主としてカオリン化及び褐鉄鉱染からなり、しばしば珪化を伴う酸性変質帯である。

岩石地化学異常として注目されるのは、Pb-Zn-As高異常である。

上記の変質帯は、空中磁気の間強度帯、中波長低異常域の周縁～近傍、及び短波長高異常の周縁～近傍に位置している。

2-18 ティグナマール南東地域

本地域の地質図をFig. 2-2-79に、模式地質柱状図をFig. 2-2-80に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-81に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-82にそれぞれ示した。

本地域の地質は、新第三系、上部新第三系・第四系及び第四系からなる。

上部新第三系は、中新統・鮮新統のイグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)からなり、上部新第三系・第四系に不整合に覆われる。

上部新第三系・第四系は、主として珪長質軽石凝灰岩からなる下位層と、玄武岩質～デイサイト質の溶岩からなる上位層からなる。下位層は、玄武岩質～安山岩質溶岩・砂岩の各薄層を挟む。

調査域西部には、上部新第三系・第四系の玄武岩質～デイサイト質の溶岩分布域に、WNW-ESE方向に伸長した大規模な白色化変質帯が分布する。この変質帯は、カオリン化、明礬石化、珪化、褐鉄鉱染等からなる酸性変質帯である。

岩石地化学異常として注目されるのは、As高異常である。

上記の変質帯は、空中磁気の間強度帯の近傍、中波長低異常域の内部及び短波長高異常部に位置している。

2-19 プトレ南地域

本地域の地質図をFig. 2-2-83に、模式地質柱状図をFig. 2-2-84に、鉱徴位置図をFig. 2-2-85に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-86に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-87にそれぞれ示した。

本地域の地質は、上部白亜系、上部第三系・第四系、第四系及び貫入岩類からなる。

上部白亜系は玄武岩質～流紋岩質の溶岩からなり、第三紀の貫入岩類に貫かれる。この貫入岩類は、花崗閃緑岩、閃緑岩、閃緑斑岩及び石英斑岩からなる。これらの貫入岩類は、今回、K-Ar法年代として、閃緑岩： 13.7 ± 0.5 Ma(全岩)、閃緑斑岩： 17.1 ± 0.5 Ma(黒雲母)、 14.1 ± 0.6 Ma(全岩)、石英斑岩： 13.7 ± 0.7 Ma(全岩)を得たことから、新第三紀中新世の活動であることが明らかになった。上部白亜系及び上記貫入岩類は上部第三系・第四系により不整合に覆われる。

上部第三系・第四系は、イグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・凝灰角礫岩)からなる下位層と、これを不整合に覆う玄武岩質～安山岩質溶岩とからなる。

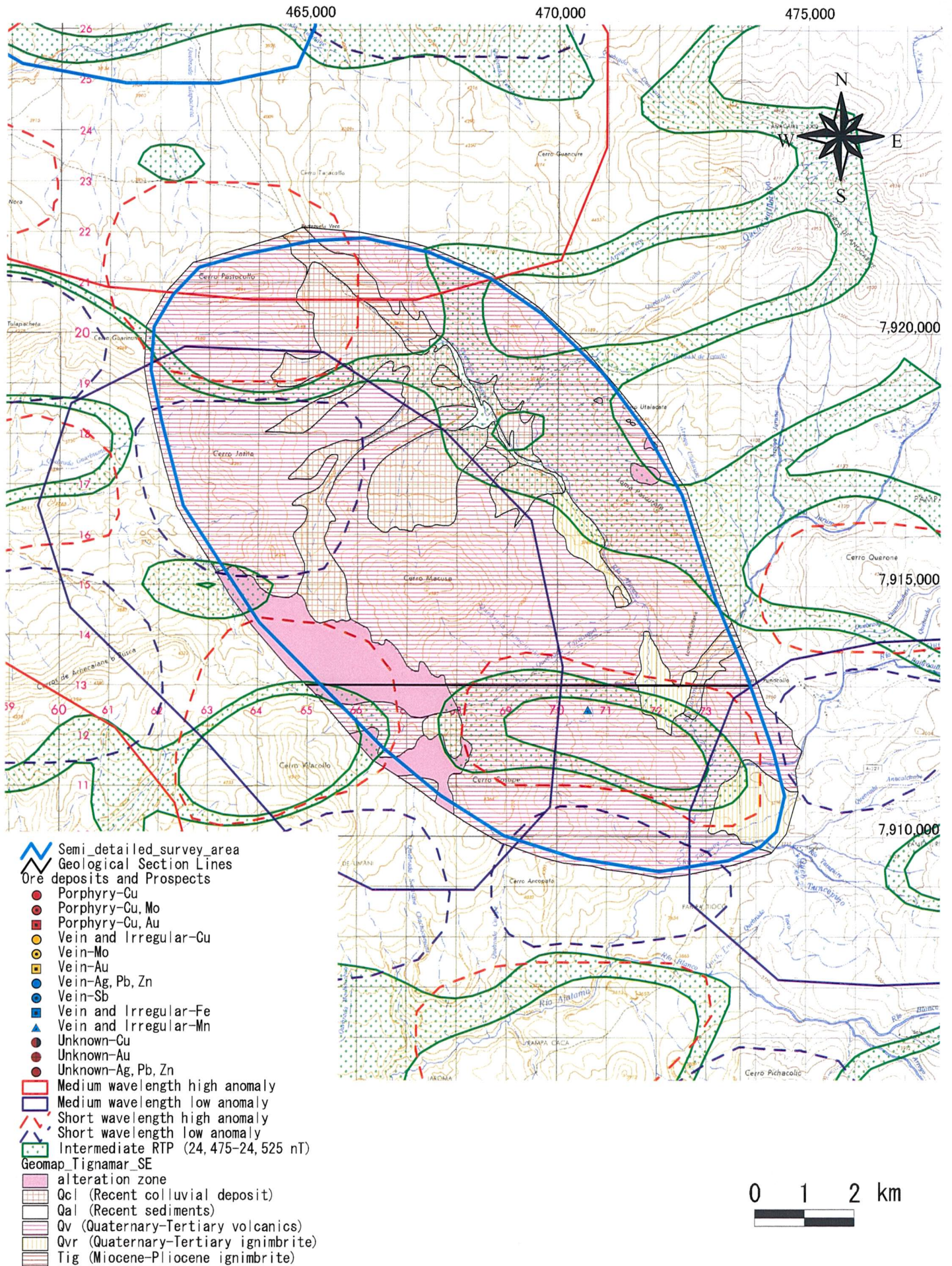


Fig. 2-2-79 Geological Map of the Area to the Southeast of Tignamar



Geologic Time		Columnar Section	Lithology	Intrusives	Mineralization
CENOZOIC	QUATERNARY HOLOCENE	QcE Qal	Colluvium Alluvium		Epithermal type (kaolin, silica, sericite) ↑
	QUATERNARY ~ TERTIARY	Qv Qvr Qvc	Basaltic, andesitic, dacitic lavas Pumice tuff Sandstone		
	TERTIARY PLIOCENE ~ MIOCENE	Tig	Welded tuff Pumice tuff		

Fig.2-2-80 Schematic Stratigraphic Columns and Profiles of the Area to the Southeast of Tignamar